

伝統文化の未来

私達は何を残すべきか

同志社大学文化情報学部

阪田真己子



第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 2
©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/5

自己紹介

阪田真己子 (文化情報学部)

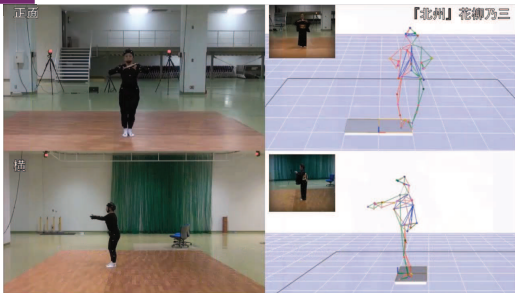
- ▶ 専門分野
認知科学・デジタルヒューマニティーズ・身体メディア論
- ▶ 研究テーマ
身体知の可視化に関する文理横断的研究
- ▶ 研究プロジェクト
伝統文化ビッグデータ構築PJ
お笑い芸能研究PJ
長期入院児のおもてなしPJ
障害のある児童・生徒・学生の移行支援PJ

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 3
©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/5

芸能・無形文化財のビッグデータシステムの構築

伝統芸能

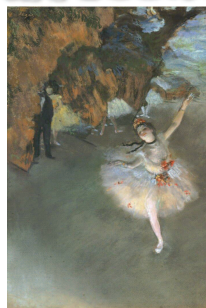


撮影協力: 花柳乃三 (日本舞踊家)

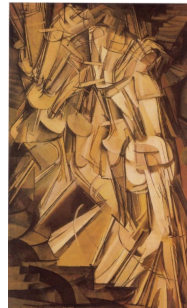
第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 4
©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/5

動きをとどめる



Edgar Degas
Danseuse sur la scène (c.1878)



Marcel Duchamp
Nude Descending a Staircase, No.2 (1912)



月岡芳年
武蔵坊弁慶 九代目 市川團十郎 (1890)

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 5
©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/5

無形文化としての芸能

空間芸術 彫刻, 絵画, 建築

◀ 唯一無二の実体として作品が存在する

時間芸術 舞踊, 音楽, 芸能

無形文化

◀ 都度誰かが実体化しなければ作品として存在し得ない

形無き文化をいかに可視化するか

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか
©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/5

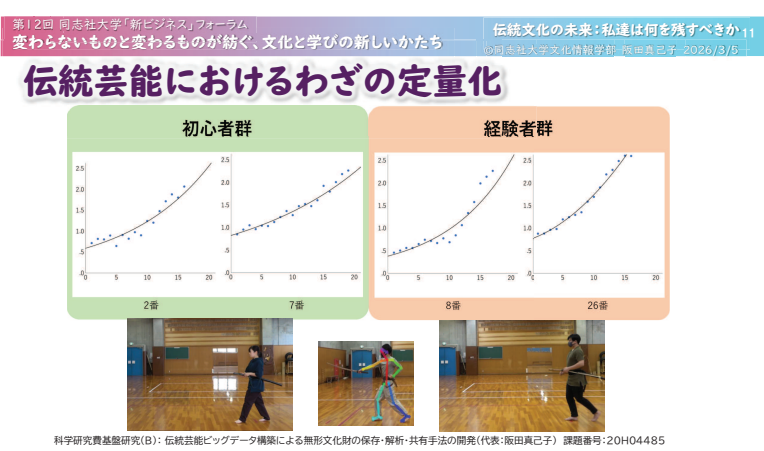
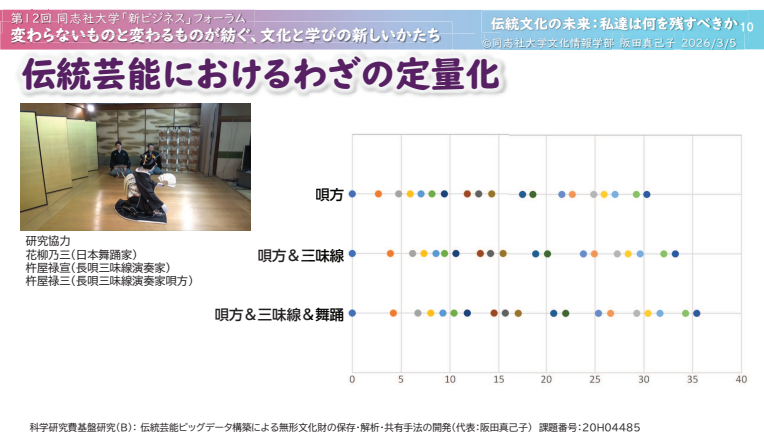
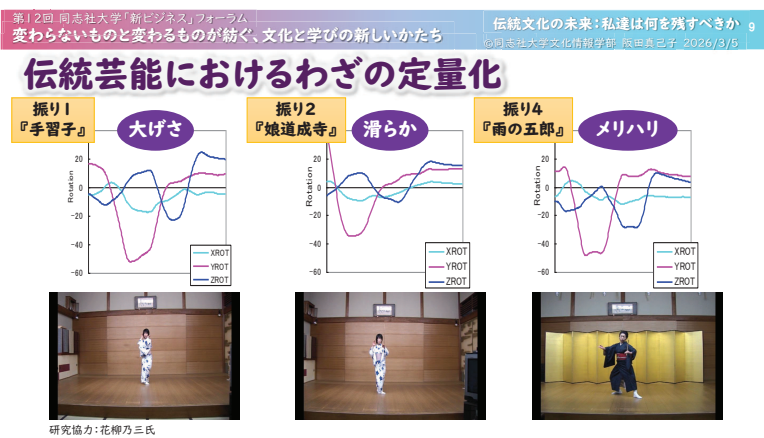
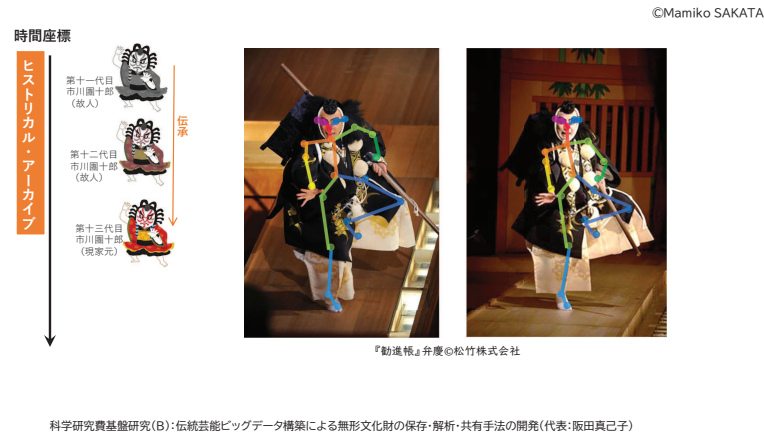
芸能 (無形文化)

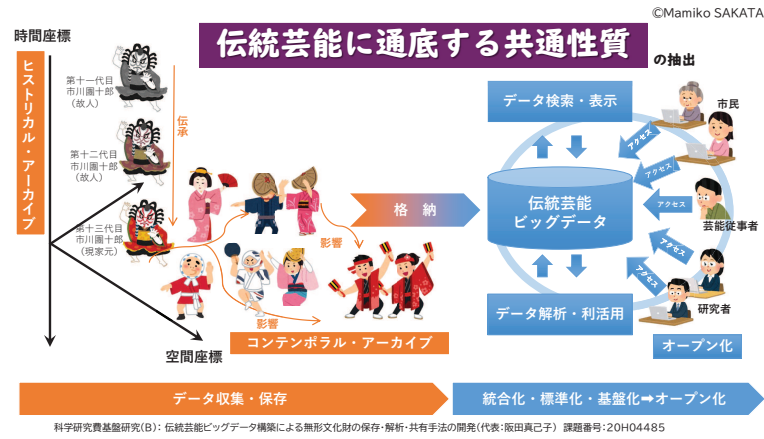


形無き文化の可視化

都度
誰かが
その身体で
実体化しなければ
作品たり得ない

研究協力: 花柳乃三氏 (日本舞踊家), 岸屋緑三氏 (長唄), 岸屋緑宣氏 (長唄三味線), 和田修志氏 (謡曲), 谷屋衣裳店 (衣裳), かつら伴 (かつら)
科学研究費基盤研究(B): 伝統芸能ビッグデータ構築による無形文化財の保存・解析・共有手法の開発 (代表: 阪田真己子) 課題番号: 20H04485





第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 14

変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/6

「わざ」の継承

日本の長唄の譜面

非段階的 暗黙的 非合理的

生田(1987)

どの音階で唄うのか明確には書かれていない

師匠の手本がないと再現不可能

西洋の音楽の譜面

段階的 明示的 合理的

どの音を演奏すればいいのかが明確に表示

譜面さえ見れば誰もが再現可能

資料提供: 杵屋緑三氏

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 15

変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/6

「わざ」の継承

日本の長唄の譜面

非段階的 暗黙的 非合理的

生田(1987)

どの音階で唄うのか明確には書かれていない

師匠の手本がないと再現不可能

弟子が師匠から主体的に掴み取ることでしか習得できない

- 「技術」を習得することが目的ではない
- そこで掴み取られた物が継承されていく

稽古 ⇒ 型の習得

資料提供: 杵屋緑三氏



第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか 17

変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/6

伝統芸能における「わざ」

日本の長唄の譜面

非段階的 暗黙的 非合理的

生田(1987)

どの音階で唄うのか明確には書かれていない

師匠の手本がないと再現不可能

弟子が師匠から主体的に掴み取ることでしか習得できないもの

- 「技術」を習得することが目的ではない
- そこで掴み取られた物が継承されていく

残すべきものを残してこれたのだろうか

稽古 ⇒ 「型」の習得

資料提供: 杵屋緑三氏

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

伝統文化の未来: 私達は何を残すべきか

変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち

©同志社大学文化情報学部 阪田真己子 2026/3/6

芸能(無形文化)

稽古で継承され 舞台上実体化されたわざを残せているだろうか

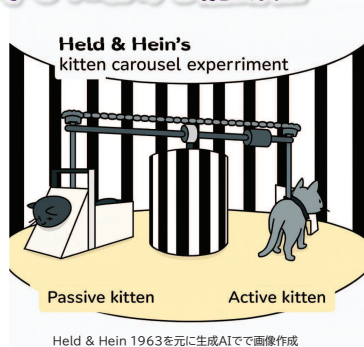
形無き文化の可視化

都度誰かがその身体で実体化しなければ作品たり得ない

研究協力: 花柳乃三氏(日本舞踊家), 杵屋緑三氏(長唄), 杵屋緑宣氏(長唄三味線), 和田修志氏(謡師), 台屋衣裳店(衣裳), かつら伴(かつら)

科学研究費基盤研究(B): 伝統芸能ビッグデータ構築による無形文化財の保存・解析・共有手法の開発(代表:阪田真己子) 課題番号:20H04485

学びにおける能動性



視知覚は“見るだけ”では発達しない

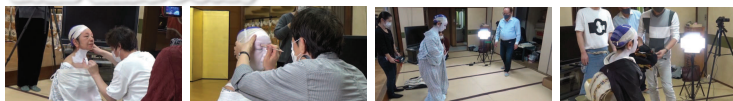
自らの身体を通して世界と関わる経験[能動的探索]が必要

能動的探索を経て獲得する

身体知

→発達に貢献

芸能（無形文化）



その場限りの美意識

何を残すか

何が残せるか

残すことに意味があるか

文理横断的なアプローチ

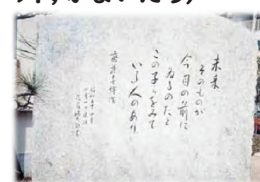
研究協力：花柳乃三氏（日本舞踊家）、杵屋禄三氏（長唄）、杵屋禄宣氏（長唄三味線）、和田修志氏（顔師）、谷屋衣裳店（衣裳）、かつら倅（かつら）
科学研究費基盤研究(B)：伝統芸能ビッグデータ構築による無形文化財の保存・解析・共有手法の開発(代表：阪田真己子) 課題番号：20H04485



謝辞

研究協力

- 株式会社吉本興業
(島木譲二、池乃めだか、シャンパーハット、かまいたち)
- 花柳乃三氏（日本舞踊家）
- 杵屋禄三氏（長唄）
- 杵屋禄宣氏（長唄三味線）
- 和田修志氏（顔師）
- 谷屋衣裳店（衣裳）
- かつら倅（かつら）



斎藤喜博氏碑文（教育学者）
宝塚市立逆瀬台小学校